

折々の記 No306 慰霊協理事長退任す！

(令和8年5月15日記)

先般開催された大東亜慰霊協の理事会で、小生の代表理事退任が了承された。

思えば、平成30年5月に、(公財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会(以下「慰霊協」という)の理事就任を請われ、一年間慰霊協の活動に携わった令和元年5月末の理事会で代表理事に就任した。爾来約8年、途中コロナの問題もあり、十分な活動もなし得ぬままに、脳梗塞を発症し、その後の心アミロイドーシスと病名が確定したこともあって任に堪えられないと判断して辞任を申し出たのである。

### 1 理事就任の背景等

平成28年1月の硫黄島遺骨収集に参加する機会があった。その縁で、慰霊協の常務理事を務めている同期から慰霊協に参加してほしいと請われ、同期の要望でもあり、硫黄島の収集に参加して、戦没者遺骨収集の必要性を強く感じたこと、また毎年初詣に靖国神社に詣でる等、慰霊顕彰の重要性を理解していたこともあって了承した次第である。

### 2 慰霊協の抱える課題とその解決策の模索

発足時に十分な基金を準備できず、かつそれ以降も大口寄付者が現れることもなく、会員や賛助会員も高齢化し年々減少の一途をたどっていた。活動経費はそれなりに必要で、いずれは資金難により解散せざるを得ないと言える厳しい状況にある。

事務局を預かる2名の常勤理事と色々と協議もしたが、有効な手立ては見つからず、問題を先送りしたままで後任者に申し送りをしなければならぬ状況に陥った。

同様の問題はほとんどの慰霊団体が抱えており、会合の度に話題になるが起死回生の解決策は見いだせなかった。

### 3 希望の芽

前会長の辞任に伴い、新会長に安倍前首相夫人はどうかとのアドバイスがあり、お願いに伺い、ご理解を頂いた。安倍会長の影響力は絶大であるようだ。

未定ではあるが、紺綬褒章の上申権が認められれば、なにがしかの効果があろう。

### 4 小生の為すべきこと

理事就任後から、先の大戦に関する偏見を是正する必要を感じ、「大東亜戦争メモランダム」を認め発信してきた。その後それらを俯瞰し、重要な事項を「輝坊の放談」100話としてまとめ、アマゾンの電子書籍(Kindle版)化も行って啓蒙活動を行ってきた。それがどれほどの効果を持つのかは甚だ心もとない。しかし、なすべきことはなさねばならない。理事長を退任しても、この営みは継続する所存である。それこそが、小生に残された使命である。

### 5 終わりに

現在の体調をいつまで維持できるのかは分からない。しかし、命ある限り、この営みを続けていきたい。(了)

(了)